

出羽への道

仙台市博物館 学芸普及室 長澤 伸樹

第3回

仙台から郊外へ

私たちが普段、何げなく行き来している「道」の数々。その中にはかつて、険しい峠が行く手を阻み、時には道そのものが戦いの舞台となった例もありました。

その後、江戸時代に、幕府による街道整備が急速に進むと、沿道の景観も一変します。仙台でも初代藩主伊達政宗により、奥州街道を基軸に、仙台城下から在郷や藩外へ通じる道筋が整えられました。

また、要所には、人馬提供と荷継（伝馬役）を務める宿駅が設けられ、藩境付近では、通行する人や荷物を取り締まる「番所」が置かれました。

こうした道の中でも、奥羽山脈を越える「二口街道」と「関山街道」は、仙台と出羽（山形）をつなぐ地域交流の道として、長く利用されていたのです。

二口の道

このうち、二口街道は長町を起点に、秋保温泉から名取川上流の溪谷を抜け、峠を越えていく道です。

出羽との境付近で、馬形・山寺（山形市）へ抜ける道（山寺道）と、清水峠を越え、高野へ至る道（高野道）の二手に分かれることが、その名の由来です（図1）。



図1 宮城県管轄陸前国名取郡馬場村絵図(部分) 宮城県図書館蔵
○で囲った部分から、道が二手に分かれている。

戦国時代は、伊達氏領と最上氏領をまたぐことから、両氏が峠を挟んで衝突を繰り返していました。

江戸時代になると、街道には鉤取・茂庭・長袋・馬場・野尻に宿駅が立ち、とくに仙台と出羽を最短距離で結ぶ道のみだったこともあり、仙台からは、海産物の運搬や、出羽三山詣（もみこ）へ向かう道としても盛んに利用されました。

また、藩境に近い二口には番所が置かれ、二軒の「御境目守」と称する役人が常駐し、野尻では宿駅に住む足軽が、それぞれ警備に務めたのです。

日本初の有料道路

しかし、峠道は急勾配で、人力での通行がやっとという状況でした。そこで明治五年（一八七二）、仙台の大竹徳治と若生儀兵衛が、山形の地元有志とともに、私費を投じて道を改修したのです。完成後は経費回収のため、日本の公共道路では初めてといわれる、通行料の徴収も行われました（図2）。

牛馬の通行が容易となったことで、地域の往来はますます活気づいたといえます。しかし、明治十五年に仙台・山形間を横断する「関山隧道」（トンネル）が政府の主導で開かれると、二口街道は通行量が激減し、主要交通路としての役目を失いました。

自動車や鉄道など近代交通の普及を前に、公益に資する道を切り開いた大竹らの動きは、両地域を今に結び続ける大きな要因になったといえるでしょう。



図2 二口峠での通行料徴収を示す制札の写し 個人蔵

館内設備の緊急点検・工事が終わりましたら、再開館いたします。
日程が決まり次第、博物館ホームページ・ツイッターでお知らせいたします。

特集展示 仙台藩の絵画

再開館日~11月23日(月・祝)

仙台藩主が描いた絵画や藩に仕えた絵師の作品など、江戸時代の仙台を彩った絵画を紹介します。

花鳥図屏風(右隻・部分) 伊達綱宗筆
仙台市博物館蔵
展示期間:再開館日~11月23日(月・祝)

【観覧料】一般・大学生 460円、高校生 230円、小・中学生 110円
※新型コロナウイルス感染症予防のため、ご来館の際にはマスクの着用にご協力をお願いいたします。

※開館状況など最新の情報は、博物館ホームページをご覧ください。

仙台市博物館
SENDAI CITY MUSEUM

▶博物館ホームページ | 仙台市博物館 | 検索 |
▶博物館ツイッター | @sendai_shihaku | 〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡) TEL:022-225-3074